

テーマ：臥床患者用の手足浴ベースン

■ 背景

ICUで治療中の患者は臥床状態が長く続く事がある。病状により患者自身で自由に手足を動かすことが困難なケースや、鎮静剤や意識障害により自力で座ることが難しい患者もいる。当然、入浴やシャワーも困難である。手足だけでもベースンを用いて温浴させることは、血行改善につながるだけでなく気分転換にもなり疾患改善に結び付くことが期待される。しかしながらICUのベッドは狭く、また周囲に様々な医療機器が設置されており、ベースンによる温浴を行う事はスペース的に困難である。

ICU用のベッドが狭い事は多くの病院で共通している。

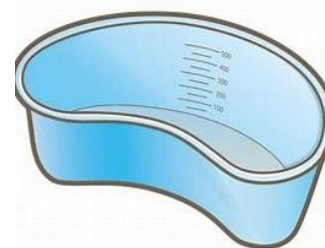


<出典：看護roo>

■ 課題

ICUで処置している患者の多くは意識のない人が多く、上記に加えて、市販のベースンには例えば下記の課題がある。

- ・ベッド上に置いたベースンは不安定であり、ベッドにお湯がこぼれることがあり、シーツが濡れると雑菌増殖に繋がる恐れがある
- ・腕を浸す場合、手首まで浸ける事が困難
- ・湯温は看護師が手で触れて確認するだけで温度管理が不正確
- ・脚部ではふくらはぎがベースン端に当たり圧迫するため、痛みを伴っている可能性がある
- ・大きなベースンにお湯を入れると重いため、医療従事者の負担が大きい



ICUだけでなく、自宅での介護や高齢者介護施設でも同様の課題が潜在的に存在すると考えられる。

■ ベースンのアイデア事例

- ・手首や足首が圧迫されないような工夫、あるいは柔らかい構造
- ・水がベッドの上にこぼれにくい構造
- ・マットの上でも安定するような構造
- ・手や足の形状のベースンにするなど、お湯を入れた後の重量が最小限になるような工夫
- ・保温性に優れる特性の素材